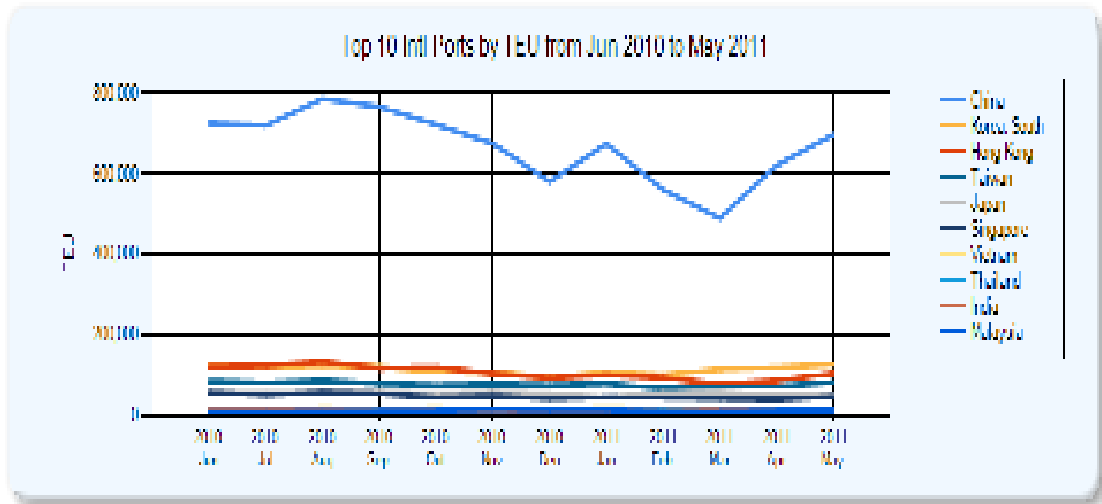


米国通関統計 5 月度輸入実績速報

ゼポ発表；アジア発米国向けコンテナ 5 月は前月比 11.5%増、前年比は 6.9%増

中国は前月比 12.2%増， 日本発はマイナス幅縮小 2.5%減に



(5 月度月別トレンド；Top Line 中国)

Source; Zepol Corporation-TradeIQ*

Zepol (ゼポ) Corporation (本社・米国ミネアポリス www.zepol.com) は、6 月 8 日、米国税関 AMS・B/L データを基に、米国海上輸入 5 月度実績をまとめました。

それによると、アジア主要 10 カ国発 (B/L・Loading Port・母船積地ベース・実入り TEU) は、先月に比べて 11.5%のプラスで前年同月比でも 6.9%の増加で 116 万 TEU となりました。(別表 1 参照)

主力の中国が 4 月の大幅増(27%)に続き 5 月も前月比 12.2%と増加、前年比でも 10.8%増と例年の第 2 四半期上昇傾向を示しています。

香港、シンガポール、台湾、ベトナム、インドがいずれも前月比 2 桁の増加でしたが、韓国は前月比で 4 月(4%)に続いて 5 月 5.8%増で、前年比では横ばいです。

日本発について、震災影響が顕著だった 4 月実績(-13%)に比べて、5 月は日本積みは 2.5%の減少、釜山経由 T S は 27.7% (別表 2 参照) の大幅増と、5 月中間速報 (それぞれ-7%、+19%) 時点よりも更にマイナス幅が縮小しました。

これを主力輸出企業 (自動車部品、タイヤ、建機) 35 社の TEU 合計の前月比で見ると 4 月末(-17.7%), 5 月中間(-5%)に対して今回の 5 月末は 9.9%増となりました。(自動車部品 +1.6%, タイヤ +29.8%, 建機 +20.5%)

別表1 アジア主要10カ国発 米国向け5月 TEU (母船積地ベース・実入り)

USA Import from Asia Top 10 – May 2011			
Top 10 Countries Loading Port ベース	May 2011 (TEU)	前月比 (%)	前年比 (%)
1. China	696,624	12.2	10.8
2. Korea	126,319	5.8	-0.9
3. Hong Kong	104,859	20.8	-12.9
4. Taiwan	82,877	14.3	13.1
5. Japan	48,976	-2.5	4.6
6. Singapore	47,401	17.4	-0.3
7. Vietnam	17,752	12.5	85.4
8. Thailand	13,221	-3.2	16.4
9. India	13,381	12.5	-0.9
10. Malaysia	13,257	5.7	19.1
Asia Top 10 Total (WW Share 66.4%)	1,164,667	11.5	6.9
USA Total (World)	1,753,307	7.7	8.1

Source; Zepol Corporation-TradeIQ*

別表2 釜山港 T/S 5月 国別 TEU と前月比

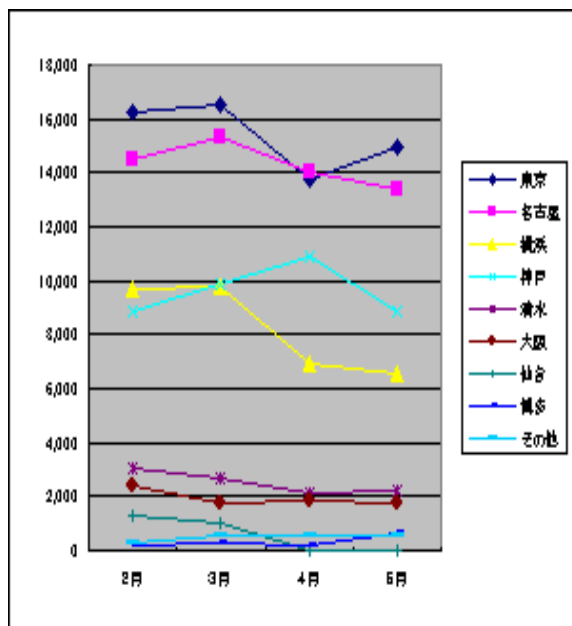
Place Receipt 荷受地ベース	May 2011 TEU (Share %)	前月比 (%)	前年比 (%)
1. 韓国 自国分	57,489 (50.7)	9.8	14.9
2. 中国	41,583 (36.6)	3.1	-20.0
3. 日本	5,707 (5.0)	27.7	25.8
4. ベトナム	2,012 (1.9)	0.4	-2.3
5. インドネシア	2,140 (1.8)	12.4	43.2
6. マレーシア	1,094 (1.0)	42.7	76.3
7. 台湾	1,044 (0.9)	-27.9	-48.7
All Others	2,413 (2.1)	-14.5	0.7
釜山積み合計	113,461 (100)	6.9	-1.5
韓国積み合計	126,319	5.8	-0.9

Source; Zepol Corporation-TradeIQ*

日本主要港の2月から5月まで4ヶ月間の月別変化を見ると、日本積みでは横浜、東京の4月の落込分の回復が未だですが、数量的には博多の増加分で、全体は-2.5%とマイナス幅が小さくなりました。(別表-1 及び-3 参照)

別表-3 日本積み震災前後の荷動き

母船港	2月	3月	4月	5月
東京	16,259	16,568	13,743	14,969
名古屋	14,463	15,280	14,065	13,346
横浜	9,734	9,819	6,885	6,582
神戸	8,869	9,836	10,893	8,864
清水	3,028	2,709	2,116	2,218
大阪	2,423	1,768	1,849	1,753
仙台	1,263	1,032	4	0
博多	148	307	158	656
その他	273	590	514	588
日本合計	56,461	57,909	50,226	48,976



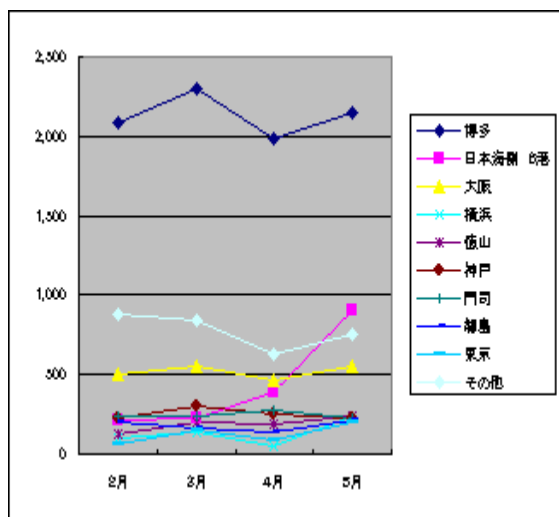
Source; Zepol Corporation-TradeIQ*

一方の釜山経由は震災影響回避で日本海側6港に加えて横浜、東京からも増えて前月比で28%の伸びを示しました。(別表-2 及び-4 参照)

5月は日本海側合計が、釜山経由日本発の16%(震災前5%)を占めました。(6港=新潟・苫小牧・秋田・金沢・直江津・富山、多い順 >50TEU) (特に新潟が410 TEUと急増)

別表-4 釜山港経由 TS 日本発分

荷受港	2月	3月	4月	5月
博多	2,085	2,297	1,989	2,147
日本海側 6港	217	220	386	909
大阪	508	559	466	551
横浜	99	132	56	243
徳山	128	195	192	239
神戸	223	299	257	231
門司	239	233	270	224
細島	195	166	134	215
東京	63	156	86	195
その他	875	844	632	753
日本発合計	4,632	5,182	4,468	5,707



Source; Zepol Corporation-TradeIQ*

** Zepol (ゼポ) TradeIQ とは ???

- * Zepol TradeIQ は、米国税関から公表される AMS (Automated Manifest System) B/L 記載データを Zepol (ゼポ) が独自開発した検索エンジンによりデータベース化した米国貿易統計データで、通関後約 1 週間で分析結果を把握可能としました。
- * 毎日数万件に及ぶ全米各港からの B/L 情報が 2003 年以來、既に 9 千万件蓄積されており、米国のデータベースにユーザーはどのパソコンからでも簡単にアクセスし、検索・作表・ダウンロードが可能で、IT のパワーをフルに活用した速報性の高い分析ツールとして評価されています。
- * ロジステック関連 IT ソリューション・プロバイダーとして、Zepol は 2011 年発表の “Top 100 Logistics IT Providers” にも選ばれています。
(www.inboundlogistics.com/lit/top100.shtml)
- * PC 画面上で B/L #, Shipper, Consignee, Ports, Carrier, Products, Weight, TEU などの個別 B/L 記載内容のマトリックス分析が簡単に出来ます。
- * 又、Container Type, LCL/FCL, Empty/Loaded, FROB 貨物、などの区分も可能で目的に応じた分析が出来ます。
- * 毎月、約 40 日後に発表される商務省統計に先立ち、前月の米国輸入動向が翌月の上旬には把握できる「一番早く公表される米国貿易統計」です。
(ただし、公式データである AMS 記載内容を忠実にそのままデータベース化し、TEU もそれに基づいて一部推計していますが、もしも AMS 記録内容に誤りとかダブルカウントなどがあれば、その通り含まれる可能性はあります)
- * 統計情報としての公益的な情報価値に加えて、米国情報公開法により入手可能となっている個別 B/L 記載データは希少価値の高いファクト情報源です。
ゼポのクライアント企業、ポートオーソリティなどを含む公的機関に於いては、例えば国別、港別のトレンド分析から、すぐに同じ PC 画面上で荷主、相手港、輸入先、船社/NVOCC、品目・数量などアクチュアル情報への掘り下げを行いアクションに結び付けています。
統計分析ツールであると同時に市場競争の為のツールとして活用されています。
(www.zepol.com)

本リリースの内容と Zepol (ゼポ) に関するお問い合わせ先：

日本：Zepol Japan mnanseki@zepol.jp